

第16号

駒本コミュニティ

令和2年2月25日

発行責任者/駒本小学校運営協議会会長 水木優香 住所/文京区向丘 2-37-5 電話/3827-5451

◆ ご挨拶 ◆

■ インクルーシブ教育の本質が試されるとき

学校運営協議会長 水木 優香

駒本小学校が目指しているインクルーシブ教育は、「どの子ども伸びる、誰もが分かりやすい教育」です。教育関係者は、学習システムの開発や教室環境（設備面）の配慮等にその成果を求めがちですが、本質はそこではありません。

インクルーシブ社会・インクルージョンは、「多様性を認め合い、多様性を受け入れる社会」を意味します。インクルーシブ教育も「多様性を認め合い、多様性を受け入れる教育」であることを、決して忘れてはなりません。子どもたちが多様性を受け入れるためには、自分も他人と違うことを認めることが第1歩であり、違うことが「変」ではなく「当たり前」にならなければいけないのです。

学校運営協議会において、本校の学校評価アンケートの結果をじっくり話し合いました。その内容からは、イジメの発生や対応の遅れを危惧する結果が見て取れました。イジメは自分との違いを受け入れられない弱い心から生まれてきます。「多様性を認め合い、多様性を受け入れる教育」が実を結べばイジメが無くなり、自然と相手への配慮ができる子どもたちが育ってくるのです。

学校内だけでなく社会に目を向けてみると、新型コロナウイルスの治療に当たった医療者をバイ菌扱いし、感染者を排除しようとする動きも一部で見られます。インクルーシブ教育が必要なのは、私たち大人も一緒です。

本日より本校でも、新型コロナウイルス感染症拡大を抑えるために、予防対策が本格化します。いつ感染をした児童や教職員が見つかって、おかしくない状況です。そして、この感染症から新たなイジメが発生する環境を作ってははいけません。予防対策は身体面だけではなく、心までも傷つけあうことが無いように、ご家庭でのご協力をよろしくお願いいたします。

◆ 令和元年度 第5回学校運営協議会 ◆

10月26日（火）16時～17時30分まで、学びの教室・多目的室において、令和元年度 第5回学校運営協議会を行いました。今回の議事は、以下の通りです。

1 教育活動の現状について

・以下について吉岡校長より説明があり、質疑応答が行われました。

① 授業改善、校内研究について

⇒「駒本スタンダード（学習編）」に沿う4つの学習段階の定着について。